

令和7年度浜竹保育園事業報告

1. 概 要

①運営方針

- 大田区も子育て施策に力を入れていますが、その中でも糺谷地区は地域でこどもの成長を見守る活動が活発です。災害や防犯の課題や対応策などの検討や地域の情報交換等について子どもと関わる団体や組織の代表が集まり、よりよい子育て環境づくりを目的に話し合いを持っています。7年度も「行政の方、地域関係者会議・保育施設会議・地区園長会・PTA 主催連携会議」など様々な会議に参加し、地域の課題や状況把握に努めました。その他、区としても要支援家庭や虐待等の取りこぼしがないよう、保育園との情報交換に力を入れています。当園も支援を要する家庭が増え、頻繁に子ども家庭支援センター職員の園訪問や関係者会議などの開催が多い年度でした。
- 保護者の価値観も多様化し子育てに対するニーズも変わってきました。保護者より保育園でのこどもの様子を動画で見たいという要望を受け、ホームページのトップページを動画仕様にリニューアルに向け準備していた動画を保護者会で試写したところ好評でした。今後は今まで以上に保護者目線で情報提供を考え工夫していきます。
- 業務の見直しとして、これまで主任が担っていた業務を経験の長い保育士にクラス担任と兼務で「研修担当・保育士育成担当・子育て支援担当者」を任命し計画から実施まで主体的に進めてもらいました。業務に関する情報収集や研修などにも参加し経験者として意識を持って取り組んでくれました。キャリアアップを目指し、園運営等にも関わる機会もつくりました。園長補佐としての主任 2 人制をとり今まで以上に運営について積極的に取り組んでもらい運営課題や問題点を見つけ対応策を主体的に考えていけるよう指導しています。
- 令和 7 年度も育児休業者の復帰から後半は産休・育児休業者が続き毎日のシフト体制に苦慮しました。しかし、各パートのリーダーの連携・協力体制が良く混乱なく年度末を迎えることが出来ました。今後の課題です。

② 定 員 140名（大田区との協定によります。）
（30年度より前期・後期に分け各1名予約制導入）

③事業日数 309日（12月29日～1月3日までは大田区の規定により休園します。）

④開園時間 月曜日～土曜日 7時15分から20時15分
休日保育実績 8時30分から17時30分
当番月（令和8年、1月・2月・3月のみ実施）
利用日数・人数 13日 36名

⑤保育時間 (月曜日～土曜日)

早朝保育	7時15分から 8時30分
通常保育	8時30分から18時15分
延長保育	18時15分から20時15分

⑥職員数 園長1名、 主任保育士2名、
保育士 23名 (途中産休者：4人)
看護師1名、 ・栄養士・調理員 5名
非常勤保育士4名 延長専任非常勤保育士1名 派遣保育士1名
保育補助員パート(早朝または夕方保育)2名、 清掃員1名
嘱託医(大田区の指定による) 内科医1名、歯科医1名

2. 保育運営

①保育理念

- こどもは、こども同士認め合い、助け合い、学び合う、こども社会の中で、成長することが望ましいと考えます。
- 私たちは、こどもの個性・人格を尊重し、自立を促し、日々の生活の中で家族とともにその成長・発達の援助を行います。

②保育方針

- 十分に養護の行き届いた環境の下、こども達が主体的に生き生きと生活・活動できる環境を整え自己を十分発揮し人として『生きる力』をはぐくむ。
- 愛着関係を確立させ、こどもとの継続的な信頼関係を築く。
- 保育所職員の専門性を活用し、在園児及び地域の子育て支援を行う。

③保育目標

「共に遊び 共に育ち合い 学びに向かう子」

1. 友達と一緒に遊び、楽しみながら様々な体験を重ねる中で、考えたり工夫したり、協力したりしながら主体的に行動する力を身につけるこども
2. 互いの思いや考えを共有したり、自分と異なる考えに気付いたりしながら学びに向き合い、互いに育ち合える子

④クラス編成及び職員配置

0 歳児	かめ組	1 7 名	保育士 7 名
1 歳児	かに組	2 1 名	保育士 4 名（他、派遣保育士 1 名）
2 歳児	ぺんぎん組	2 4 名	保育士 4 名（非常勤保育士 1 名）
3 歳児	いるか組	2 6 名	保育士 3 名（非常勤保育士 1 名）
4 歳児	とびうお組	2 6 名	保育士 2 名（非常勤保育士 1 名）
5 歳児	くじら組	2 6 名	保育士 2 名
		（園児定員 1 4 0 名）	（保育士 2 2 名）

主 任	2 名
非常勤保育士補助員	4 名
保育補助	1 名（常勤 1 名）
保育補助	1 名（パート）
嘱託内科医（1 名）	嘱託歯科医（1 名）

⑤保育内容

- 園庭に人口芝を敷き乳児はテラスから靴に履き替えないで園庭に出られるため、こどもを待たせたり靴に履き替える職員の負担も軽減され園庭に出る機会が増えました。また寝転がったり走る、マットや巧技台を使った遊び等、遊びの幅も広がり楽しむことが出来ました。幼児クラスも鉄棒やマット遊びなど気軽にでき体を動かす機会が増えました。何よりも転んで怪我することも少なくなりました。
- 猛暑日が長く続き戸外遊びが出来ない日が多くありました。午後 4 時以降からは園庭に出られ人工芝で遊べるため少し体力発散できました。
冷房の効いた室内で過ごすことが多い乳児には発汗機能を培っていくために、冷房の温度調節を細目にチェックし外の風を取り込むなど温度環境に気を付けました。
- 健康教育も年度後半は前半の復習をしたり、こども達の発想や考えを言葉で引き出せるように健康教育を取り入れました。
- 令和 7 年度は年度初めに異年齢交流を計画的に進めましたが、1 2 月頃より感染症が増え始め交流を控えました。
- 「SDG s」、については、こどもの提案を取り入れ計画を立てました。特に年長クラスは「ありがとうの木」をこども保護者、職員で育て花を咲かせました。（紙に大きな木の幹を書き、そこに紙の葉に個々に「りがとう！」と感じたことを書き花にしていける作業です。）保護者も一緒に参加し喜んでいました。保護者参加型にすることでこども達の関心も深まりました。
保育活動として各年齢で身近な廃材を教材や遊びに取り入れた活動も沢山実践しました。
- 食育活動として保存食づくり（干しシイタケ・切り干し大根・味噌・干し芋）を実施しました。玄関ホールに「今日使った材料」として食材を毎日展示しました。お迎時保護者と触ったり匂いを嗅ぐなど親子の関りを通して食への関心が広がったと感じています。

- 「すくわく」として各年齢「食育」をテーマに実践報告を都に提出しました。

⑥家庭との連携

- QRコードネームを首にかけて下さるようメールや掲示、保護者会でお願いするも徹底は難しいと感じています。今後も引き続きお願いしていきます。
- 保護者会にお父さん参加家庭が年々増えてきています。グループ懇談では1グループは父親グループにしフリートーキングの時間を持ちました。こどもとの触れ合い時間や遊ばせ方等、充実した情報交換が出来たようです。
お父様による保育園の送迎や保育参観などにも積極的に参加して下さる家庭が多くなりました。園としても父親の園行事への参加について、もう少し内容充実に向け検討すべきだったと反省しています。
- 大田区として全園「5歳児健康診断」を実施しました。システムが分かりにくく保健所と園医の考え方、また保護者の理解や対応もばらつきがあり改善点が多くあったようです。個々のこどもの課題を抽出し保護者に伝え支援につなげることが目的でしたが、現場の私達にもよく理解できないシステムでした。次年度から直接保健所が行うようです。
- これまで継続的に園児中心の健康教育を行い自分の身体や健康づくりへの意識も芽生えてきました。7年度計画していた親子で参加型健康教育（健康かるた・紙面でのクイズなど）は、実践できませんでした。8年度に繰り越します。
- 令和6年度の第三者評価受審における評価の中で、「今後の課題として保育の状況を家族全員が共有できるよう工夫していくと良い。と助言がありましたので7年度から幼児クラスの活動記録は家庭で共有出来るようコードモンで配信しています。
- 安全保育について毎月のクラス便りに簡単に掲載していますが、保護者会において各年齢の安全保育について分かりやすく説明しました。
- 幼児の食育活動「保存食づくり」について作り方や活動の様子等、写真やイラストで保護者にも紹介したところ保育園の食育活動に驚かれていました。
- 7年度は幼児クラスの活動記録、全クラス日誌、お便り、献立表、アンケートなど昨年度よりコードモン配信を広げました。職員も慣れて入力時間も早くなりました。閲覧率が上がりず保護者会で協力依頼をしました。

⑦人材育成

- 令和6年度から継続している職員同士の「公開保育」を7年度は期間を決めて個々の都合に合わせて保育観察をしました。業務に支障なく柔軟に実施することができました。お互いの保育を見合う事は自分の保育を振り返る良い機会となっているようです。
人権についても個々のチェックとパートごとの振り返りをしました。職員の意識が少しずつ変化していると感じています。
- 育児休業代替えの看護師に7年度は健康教育として年間の計画立案と健康教育後半に実践して

もらいました。現場を見て教えることの難しさを感じたようです。

- 令和6年度より難しい精神疾患の保護者が増えました。統合失調症や自閉症スペクトラムの大変難しいケースもあり子ども家庭支援センター・保健師・かかりつけ医師・保育サービス課と連携を取りながら対応していますが、職員間での情報共有と外部講師による勉強会で共通理解を図り少しでも保護者に寄り添えるような対応に努めました。
- 職員の自主的な研修や業務における意欲や成果など取り組みに対して、処遇改善評価につながることを職員に周知しモチベーション向上をはかりました。
- 年度替わりに「安全保育計画」と「保育所における不適切な対応」について主任・副主任を中心に丁寧に確認し、保育実践につながるよう振り返りを行いました。個々の温度差はありますが、保護者や子ども対応については少しレベルが上がっていると感じます。
- 保護者向けにコドモン発信が多くなり、個々のPC技術も上がってきました。
7年度より幼児クラスの日々の活動記録を配信していますが、毎日チェックしている人の割合が低く課題です。

⑧地域の実態に対応した事業

地域子育て支援事業

- 子育て支援活動として人気のある「離乳食講習会」を2回計画しましたが、感染症流行で2回目を中止としました。1回目は6人の参加でした。質問が多く有意義な時間となったようです。
 - ・子育て支援活動「はまっこ」：8回実施、29参加（感染症流行の為1回中止）
 - ・育児応援券利用（体験保育）：14回 14組・15人
 - ・施設見学：1日2回延べ23回 107人参加
- 近隣老人施設とは、これまで同様に年長児のお神輿練り歩き施設訪問交流をしました。途中で他の系列施設からも交流依頼があり、クリスマスとひなまつりの時期に年長児が歌のプレゼントや一緒に手遊びなどの交流をしました。
- 精神疾患の保護者が増え子ども家庭支援センターと関わるケースも増えてきました。病気の特徴や家庭背景について全職員で情報の共有と対応の共通理解について、外部講師による研修会や職員の検討会をもち適正な対応に心がけました。
 - ・保護者の中に「大人の自閉症スペクトラム」の方がいらっしゃり、こだわりが強く対応が難しいため外部講師から助言を頂き職員で細かく打ち合わせをしながら対応しました。

幼保小中との連携事業

- 近隣保育園（東栂谷）と交流を5回計画しましたが、年末から感染症がお互いに流行り交流を2回中止しました。交流を重ねていくにつれ就学の話も盛り上がり、小学校での再会に期待する声も聞かれました。
- 近隣「萩中小学校」2年生との交流では授業体験をさせて頂きました。学校に対する期待が大きくなったようです。
出雲中学校6人・羽田中学校3人の職場体験を3日間ずつ受け入れました。

- 近隣園の起震車体験に参加させて頂きましたが、煙体験は参加できませんでした。

⑨苦情処理

- 入園説明会において苦情解決「第三者委員」制度について説明周知しました。
保育中の怪我対応については、入園児のオリエンテーションで日本スポーツ振興会にかけること等を丁寧に説明しました。また重要事項説明」について説明する際に「選定療養費」についても説明をしました。
- 精神疾患の保護者が多くなり、季節の変わり目や体調の良悪により保育士の話の受け止め方が大きく変わり、苦情となるケース（特定の保護者）もありました。難しい保護者対応については都度リーダー会や全体に報告し、情報共有と対応について検討してきました。そして、丁寧な対応に努めました。また、改善の必要な事項についても速やかに検討・改善し、必要に応じて全保護者に向けての回答揭示や文書にて報告しました。

⑩リスクマネジメント

- 「応急保育所」開設準備として、防災担当者 4 人が大田区直営園の訓練見学をしました。それを受け現在のマニュアルを細かくチェックし直しました。簡易トイレ設置や部屋の使い方など少人数ずつ部分的に訓練を実施しましたが、全員の 3 分の 1 しか体験できていません。次年度に引き継ぎます。
- 起震車体験は専用車を園庭に入れることが難しいとの判断で実施できませんでした。4・5 歳児は近隣園の訓練に参加させて頂きました。園外での地震訓練は 5 歳児のみ実施しました。無線での報告はスムーズでしたが、公園内での集結後の避難について判断が難しく手間取りました。園外活動時の防犯訓練は、課題が多く職員数と周りへの声掛けなど、今後の取り組み検討が必要です。
- 安全保育として保育室の棚や玩具等環境の見直しをパートごとに毎月チェックを行うとともに、不適切な関りなどチェックリストを利用し個別に確認しました。また日々の振り返りとしてパート内での不適切な言動の事例について振り返り意識化を図りました。
- 救急救命（AED）は、消防署に依頼したところ 3 人の署員が来てくださり丁寧に実践講習をして頂きました。また、応急手当については看護師による講習会を実施しました。嘔吐処理については、5 月に経験の浅い職員に対して講習会を実施しました。
7 年度も様々な感染症が流行りましたので年度末に感染症の症状の特性や予防対策など看護師の指導のもと勉強会を開催しました。
- 年度替わりの職員会で、調理パートはもちろん他職種も全員で除去食提供や衛生管理など共通理解と確認を行いました。

⑪ 修繕及び備品購入

- ・ 1・2 歳児受け渡し室の床を張り替えました。(床張り替えは廊下と事務所が残っています。)
- ・ 保育室は、すべて LED 電気になりました。(事務室・廊下・ホール・多目的室は未だです)

⑫ その他

- ・ 7 年度は受託費がかなり減額となりましたので、備品等購入品は控えました。
- ・ 人件費につきましては積み立てから充当しました。